

教員名	藤田和史	所属学科	地域政策学科
【ゼミでは何を学ぶのか】 藤田ゼミは、地域産業政策、そしてその政策の対象となる地域の産業、経済活動について、その地域性を人文地理学・経済地理学の視点から考えていきます。とくに、「地域の力」を活かす「風土産業」の考え方をベースとしながら、その地域を産業・経済・社会の面から力づける方法を考えて行きます。			
【どのように学ぶのか】 2年次の基礎演習では、「施設立地」を題材に、NIMBY施設の立地をグループワークを通じて考えます。ワークを通じて、コミュニケーションとディスカッションの能力を涵養します。3年次のゼミについて、前半では学部専門レベルの教科書を輪読しながら、経済政策、人文地理学・経済地理学に関する基本的な考え方を学んでいきます。それと並行して、夏季休業中のゼミ活動の調査内容や他大学との研究発表会での発表の準備作業もしていきます。演習の後半では、卒業論文に向けて学会誌に掲載されている専門論文を輪読しながら、論文の書き方、図表の書き方、データのまとめ方について勉強していきます。最終的には、それらを踏まえて、卒業論文の構想発表をしてもらいます。4年次には、各自が設定した卒業論文のテーマについて、研究の経過報告と論文指導が中心となります。 ゼミでは、各回の複数名に報告を求めます。わからない言葉・事項については、必ず事前に調べてから発表に望むことが必要です。毎回きちんと議論に参加し、ゼミ活動にも積極的に関わるなど、自ら主体的に学ぶことに加えて、他者の学びにも貢献することが必要です。			
【学んだことはどのように生かせるのか】 本ゼミでは、いわゆるジェネリックな技能（精読・ディスカッション・プレゼンなど）のほかに、分析・作図といった能力を習得してもらうことになります。また、フィールドでの調査は、インタビューなど他者とのコミュニケーション能力を磨いてもらうことになります。これらの能力は、公民の別を問わず、あらゆる職種で求められる能力です。前任校では、公務員（国家専門職・都道府県・市町村）や、民間企業（インフラ系・サービス関係など）が多くみられました。			
【おすすめの入門書・基本テキスト】 水野一晴 2021. 『自然のしくみがわかる地理学入門』 角川ソフィア文庫。 和田 英 2014. 『富岡日記』 ちくま文庫。 小関智弘 1998. 『町工場・スーパーなものづくり』 筑摩書房。			

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

大学での学びは、新たなことを学ぶ「知的冒険」であると同時に、自分から知識を作り出す「知識創造」でもあります。色々な人たちと交わり、知らないことを積極的に取り込みつつ、自分の中で知識と知識を結びつけて、新しい知識を「創造」してください。それは何者にも得がたい、自分だけの宝となります。